

令和3年度 第2回 MTDLP全国推進会議

MTDLP研修等の実施状況について 令和3年度実施「Web アンケートの結果」

令和4年1月26日
(19:15~19:25)

推進シート担当 紅野 勉 ・ 高橋啓吾

アンケートについて

令和3年度 MTDLP推進に関するアンケート調査結果について

Webアンケートの報告 <回収 43/47 (91.5%)>

アンケートの調査項目

1、背景情報

- ①MTDLPの推進体制について
- ②事業（活動）に関することについて
- ③MTDLP指導者との連携について
- ④その他

2、MTDLP推進の目標値（アウトカム）について

- ①MTDLP指導者数
- ②その他、士会独自の目標等
- ③新規 基礎研修履修者数・研修回数
- ④実践研修履修者数・研修回数
- ⑤その他の取り組み

3、研修への参加促進に対する取り組み

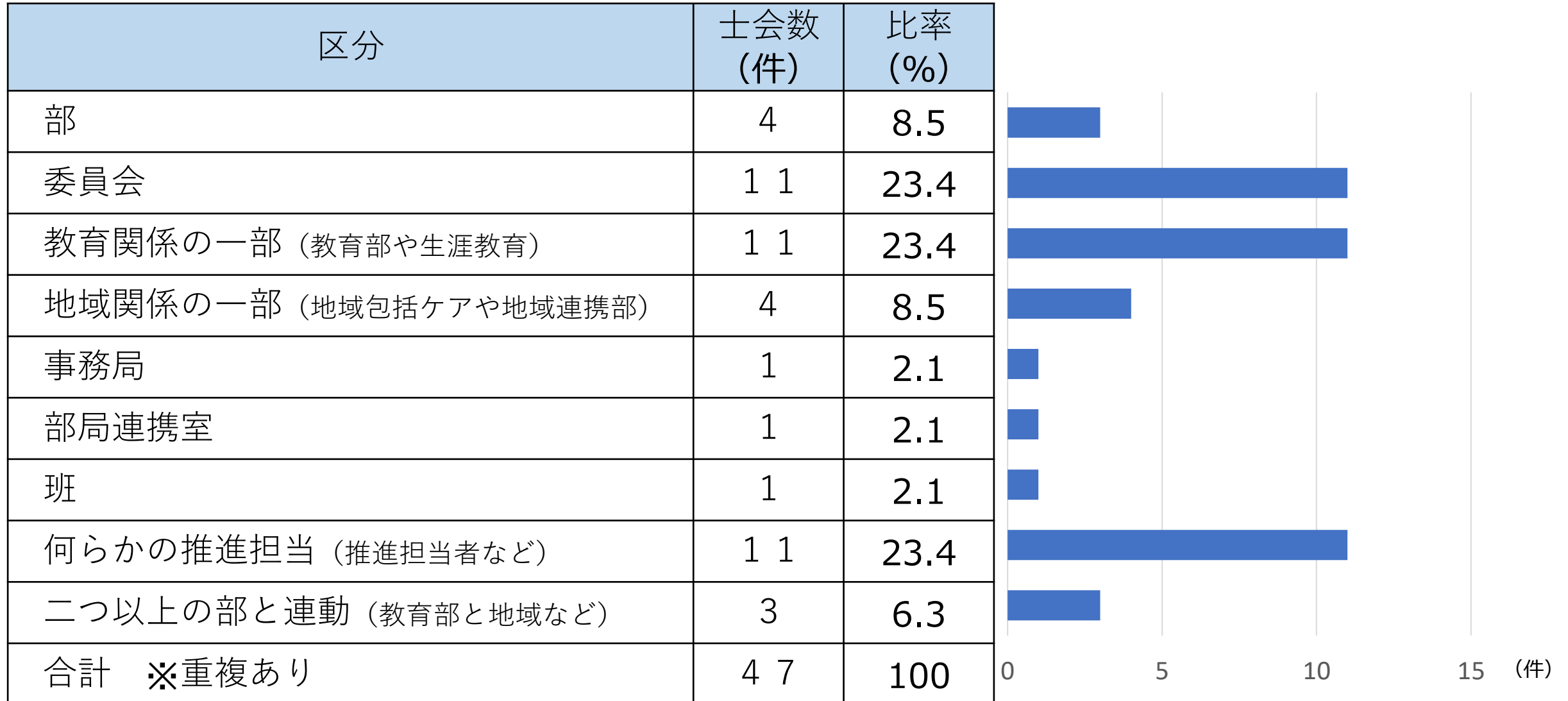
4、次年度に向けた対策等について

5、普及・推進において困難に感じているポイント

6、その他（他士会からの研修参加について）

| | 会員数 | 士会名 |
|----|---------|------|
| 最多 | 3, 296 | 福岡県 |
| 最少 | 478 | 和歌山県 |
| 平均 | 1, 094 | |
| 合計 | 45, 956 | |

結果 1-① 推進体制について(士会内の位置づけ)



結果 1－③ 推進体制について（指導者との連携）

- 多くの士会で**指導者**と**推進委員**は**連携**している。
- **指導者が推進委員**を行っていることが多い。
15士会（確認できるところ）
- 指導者との連携が**不十分**
4士会

結果 2-① 目標とするMTDLP指導者（数）について

士会として必要な指導数（人）

| 人数 | 士会数 | 比率 | |
|-------|-----|-------|--|
| ～ 5 | 15 | 34.9 | |
| 6～10 | 22 | 51.2 | |
| 11～20 | 4 | 9.3 | |
| 21～30 | 0 | 0.0 | |
| 31～40 | 1 | 2.3 | |
| 41～50 | 0 | 0.0 | |
| 51～ | 1 | 2.3 | |
| 合計 | 43 | 100.0 | |

結果 2-② その他士会独自の目標等について

| 士会名 | コメント |
|---------|--|
| 02青森県 | 研修会の受講者数、地域支援事業への参画人数、実務や地域支援事業における会員の実践力（質）の向上 |
| 09 栃木県 | 身体障害領域（急性期・回復期・生活期）、精神障害領域（病院・地域）、発達障害領域、老年期障害領域（通所・訪問）、予防期に分けて部員構成に取り組む。まだ十分に組織化されていない。 |
| 10 群馬県 | 講師可能な指導者を現在の3名から倍の6名にする |
| 17 石川県 | 実践者研修は4支部、各3回実施し、計12回開催とする |
| 21 岐阜県 | 各圏域や各領域ごとに指導者が1名以上 |
| 22 静岡県 | （東部、中部、西部：各地区3名）＝合計9名を目標にする。 |
| 25 滋賀県 | 基礎研修修了者士会員数の6割、実践者3割 |
| 30 和歌山県 | 地域で必要に応じてMTDLPを活用出来る |
| 36 徳島県 | 士会員に対するMTDLP基礎研修受講率80% |
| 41 佐賀県 | 新規の指導者1名の確保 |
| 42 長崎県 | 基本、協会の基礎研修修了及び実践研修修了の割合目標達成を目指す |

結果 2-③ 目標値（アウトカム）について・・・「基礎研修」

基礎研修の開催計画（回数）

| 回数 | 士会数 | 比率 |
|----|-----|-------|
| 1 | 24 | 55.8 |
| 2 | 16 | 37.2 |
| 3 | 2 | 4.7 |
| 4 | 1 | 2.3 |
| 合計 | 43 | 100.0 |

目標受講者（人数）

| 人数 | 士会数 | 比率 |
|--------|-----|-------|
| 0～10 | 4 | 9.3 |
| 11～20 | 10 | 23.3 |
| 21～30 | 15 | 34.9 |
| 31～40 | 2 | 4.7 |
| 41～50 | 2 | 4.7 |
| 50～100 | 7 | 16.3 |
| 101～ | 3 | 7.0 |
| 合計 | 43 | 100.0 |

基礎研修の開催計画（全士会）

| | 受講計画人数 | 会員比 | |
|-------|--------|-------|-----|
| 全士会合計 | 1,740 | 3.79% | |
| 平均 | 40.5 | | |
| 最少 | 2 | 0.06% | 北海道 |
| 最大 | 160 | 7.1% | 兵庫県 |

結果 2-④ 目標値（アウトカム）について・・・「実践研修」

実践研修の開催計画（回数）

| 回数 | 士会数 | 比率 |
|-----|-----|-------|
| 1 | 14 | 32.6 |
| 2 | 16 | 37.2 |
| 3 | 4 | 9.3 |
| 4 | 6 | 14.0 |
| 未回答 | 3 | 7.0 |
| 合計 | 43 | 100.0 |

目標受講者（人数）

| 人数 | 士会数 | 比率 |
|--------|-----|-------|
| 0～10 | 27 | 62.8 |
| 11～20 | 9 | 21.0 |
| 21～30 | 2 | 4.7 |
| 31～40 | 0 | 0.0 |
| 41～50 | 0 | 0.0 |
| 50～100 | 2 | 4.7 |
| 101～ | 1 | 2.3 |
| 合計 | 43 | 100.0 |

実践研修の開催計画（全士会）

| | 受講計画人 | 会員比 | |
|-------|-------|-------|-------|
| 全士会合計 | 580 | 1.26% | |
| 平均 | 14.1 | | |
| 最少 | 0 | 0.0 | 奈良、三重 |
| 最大 | 100 | 3.03 | 福岡県 |

結果 2-⑤ その他、士会の取り組みについて

| 士会名 | コメント |
|-------|--|
| 01北海道 | ・事例登録に進めるよう要望に応じて 個別の指導 をする ・来年度は 書き方研修を基礎研修と実践者研修の間に行う |
| 02青森県 | 会員の学術活動支援として、相談窓口を設け、研究の進め方、 症例報告のまとめ方等について支援する 取り組みを行っており、MTDLPについても該当させている。士会ホームページ内で取り組みについて紹介しており、随時相談者を募集している。 |
| 03岩手県 | ① 事例検討会前（2週前）の査読 、②研修会終了後に県内会員への フィードバック資料（MTDLP通信） を作成し研修内容や感想を共有 |
| 04宮城県 | 書き方研修については、事例登録だけでなく、実践者研修での 事例発表への支援 も行っている。 |
| 05秋田県 | 実践者研修での報告者増加を促進するために、①協会の事例報告を行い、MTDLP指導者を目指すのか、②報告書にまとめることで自身の実践力を高めることを目的とするのか、の 2つから選択 できるようにしている。 |
| 07福島県 | |
| 08茨城県 | 事例登録を促進するための「 導入研修会 」を設け、 書き方研修 を実施している |
| 09栃木県 | 年度初めにMTDLP関連研修会の 日程一覧を広報 し参加を促す。 |
| 10群馬県 | 事例検討での事例提出推進のため、基礎研修、臨床実習指導者研修での案内を行っている。発表者を募集してから日程を決める試みをした。 |
| 11埼玉県 | コロナ前は、事例登録を増やすために MTDLPゼミを開催 して、合格に向けて 事例報告の添削会 を行いました。 |
| 12千葉県 | 事例を発表したい方に対しての 個別指導 |
| 13東京都 | 基礎研修の際にブロックとMTDLP指導者でサポートするので 事例検討会での発表をしてみないかと発表を促してみた ところ30名の参加者のうち5名の希望者があり、現在、発表に向けて準備しているところである。 |
| 15新潟県 | MTDLP実践と事例報告の要点を学ぶ フォローアップ研修の開催 、 良事例への事例登録への促し 。 |
| 16富山県 | 基礎研修会参加者後に アンケート を取り、事例検討会の参加希望などを早期よりくみ取り、円滑に事例検討会までの準備をフォローする |

結果 2-⑤ その他、士会の取り組みについて

| 士会名 | コメント |
|---------|--|
| 17 石川県 | 礎研修会のグループワークの各グループに指導者1名配置した。Googleスプレッドシートを活用し、参加者がリアルタイムにMTDLPシートの入力を行った。結果：参加者はタイムリーに疑問点を指導者に聞いて認識が深まり、指導者はスキルアップにつながった。 |
| 18 福井県 | |
| 19 山梨県 | 事例登録に向けた書き方研修会だと難易度が高いため、事例検討会に向けた書き方研修会を行なっている。 |
| 21 岐阜県 | 士会員にメールを使用して研修案内 |
| 22 静岡県 | ・事例報告の前と、その後にも「事例登録」を目指す人への抄録作成フォローを継続中です。・リモート研修の影響もあるのか、基礎研修の受講者の反応がわかりにくい。そのため、終了後のアンケートを集計し、全ての質問に対してMTDLP指導者が返答し、受講者全員に配布するようにして理解を深められるよう取り組んでいます。 |
| 23 愛知県 | 平日に実践者研修の実施・指導者獲得に向け事例指導 |
| 24 三重県 | |
| 25 滋賀県 | 各7圏域ある地域活動局で研修参加へのよびかけと、発表者の選定を行う |
| 26 京都府 | |
| 27 大阪府 | |
| 28 兵庫県 | HPに事例発表の資料作成における相談窓口を設置予定（HPにバナーなど作成を検討しています） |
| 29 奈良県 | 基礎研修の際にアナウンスを行っているが、実践者研修の参加者が伸び悩んでいる |
| 30 和歌山県 | |
| 31 鳥取県 | |
| 32 島根県 | 基礎研修時に実践や事例登録に関する疑義照会をメールで行っていることを広報している。 |
| 34 広島県 | |
| 35 山口県 | 書き方研修会の講義では、MTDLP指導者の合格事例を通して、書き方のイメージを持ってもらう。 |

結果 2-⑤ その他、士会の取り組みについて

| 士会名 | コメント |
|---------|---|
| 36 徳島県 | 実践者研修発表者を集めるために個別での声掛け |
| 37 香川県 | 基礎研修、実践者研修に参加された方にアンケート(氏名必須)を記載してもらおう。その際に、事例発表したいかどうか、事例登録したいかどうか、委員として活動したいかどうかを必ず聞いている。その結果をもとに参加の声掛けや事例発表者確保の声掛けを行っている。学術部の先生と連携を図り、研修会のたびにMTDLPの案内をしていただいている。 |
| 38 愛媛県 | 特に行なっていない。 |
| 39 高知県 | |
| 40 福岡県 | ・運営委員による声掛け ・SNS (LINE) での広報など |
| 41 佐賀県 | |
| 42 長崎県 | ・士会HP上に年間計画を掲載している。 ・開催時期が近くなったら、県士会LINEで研修会をアナウンスする。 ・士会の各地区のMLでアナウンスしている。 ・事例検討会では、協会事例登録用と初心者用(概要図、マネジメントシート、課題分析シートの提出)の2パターンの報告で対応している。 ・事例検討会で発表した会員については、事例登録に向けた宣言をお願いし、指導者が随時フォローできるようにしている。 |
| 43 熊本県 | 実践者研修会時に、事例登録を勧められると判断した場合は、ファシリテーターした指導者が書き方等の指導を行うように決めている。 ・事例登録を考えている会員から相談があった際は、個別にMTDLPの考え方や事例の書き方について指導するルールにしている(年々、希望者が減少傾向) |
| 44 大分県 | 実践者研修での発表前に1～2回資料の修正を行い、MTDLPの実践に対する理解を深める検討をしたうえで発表を迎えるようにした。 |
| 45 宮崎県 | |
| 46 鹿児島県 | ホームページ、SNSでの広報はもちろん、生涯教育制度の現職者研修や臨床実習指導者講習会で広報を行なっている。また、運営スタッフが所属している地域(ブロック単位)で広報促進のお願いを行なっている。実践報告者の集め、報告に向けた相談支援も運営スタッフで対応している。 |
| 47 沖縄県 | 基礎研修会の終了時にサポート体制のアナウンスを行っている。 |

結果2 士会ごとの目標値一覧（参考）

| 都道府県 | 基礎研修の 計画数 | 実践者研修の 計画数 | 士会として必要な MTDLP指導者数 | 基礎研修 受講数 | 実践者研修 受講数 |
|-------|--------------|---------------|-----------------------|-------------|--------------|
| 01北海道 | 2回 | 4回 | 10 | 2 | 5 |
| 02青森県 | 1回 | 1回 | 5 | 20 | 10 |
| 03岩手県 | 1回 | 2回 | 8 | 30 | 8 |
| 04宮城県 | 2回 | 2回 | 10 | 30 | 5 |
| 05秋田県 | 1回 | 2回 | 10 | 15 | 4 |
| 07福島県 | 1回 | 3回 | 52 | 36 | 27 |
| 08茨城県 | 2回 | 2回 | 10 | 25 | 15 |
| 09栃木県 | 1回 | 1回 | 7 | 15 | 3 |
| 10群馬県 | 2回 | 3回 | 10 | 80 | 10 |
| 11埼玉県 | 2回 | 2回 | 10 | 70 | 15 |
| 12千葉県 | 3回 | 2回 | 6 | 120 | 60 |
| 13東京都 | 2回 | 1回 | 6 | 60 | 10 |
| 15新潟県 | 1回 | 1回 | 6 | 30 | 10 |
| 16富山県 | 1回 | 1回 | 4 | 20 | 10 |
| 17石川県 | 1回 | | 11 | 30 | 30 |
| 18福井県 | 1回 | 2回 | 5 | 20 | 5 |
| 19山梨県 | 1回 | 2回 | 3 | 20 | 2 |

結果2 目標値（アウトカム）について

| 都道府県 | 基礎研修の計画数 | 実践者研修の計画数 | 士会として必要なMTDLP指導者数 | 基礎研修受講数 | 実践者研修受講数 |
|---------|----------|-----------|-------------------|---------|----------|
| 21 岐阜県 | 1回 | 1回 | 5 | 30 | 5 |
| 22 静岡県 | 2回 | 2回 | 9 | 50 | 10 |
| 23 愛知県 | 4回 | 4回 | 6 | 4 | 4 |
| 24 三重県 | 1回 | | 3 | 30 | 0 |
| 25 滋賀県 | 1回 | 4回 | 4 | 10~15 | 8~12 |
| 26 京都府 | 1回 | 1回 | 8 | 50 | 5 |
| 27 大阪府 | 2回 | 1回 | 7 | 3 | |
| 28 兵庫県 | 2回 | 1回 | 15 | 160 | 19 |
| 29 奈良県 | 2回 | 4回 | 6 | 7 | 0 |
| 30 和歌山県 | 2回 | 1回 | 5 | 30 | 2 |
| 31 鳥取県 | 1回 | 2回 | 5 | 30 | 6 |
| 32 島根県 | 2回 | 2回 | 11 | 20 | 10 |
| 34 広島県 | 2回 | 2回 | 10 | 60 | 6 |
| 35 山口県 | 1回 | 1回 | 10 | 28 | |
| 36 徳島県 | 1回 | 1回 | 3 | 30 | 3 |
| 37 香川県 | 1回 | 2回 | 6 | 15 | 20 |
| 38 愛媛県 | 1回 | | 6 | 30 | 5 |
| 39 高知県 | 1回 | 2回 | 10 | 40 | 8 |

結果2 目標値（アウトカム）について

| 都道府県 | 基礎研修の計画数 | 実践者研修の計画数 | 士会として必要な MTDLP指導者数 | 基礎研修 受講数 | 実践者研修 受講数 |
|---------|----------|-----------|-----------------------|-------------|--------------|
| 40 福岡県 | 3回 | 4回 | 32 | 150 | 100 |
| 41 佐賀県 | 1回 | 1回 | 5 | 25 | 6 |
| 42 長崎県 | 1回 | 3回 | 10 | 60 | 60 |
| 43 熊本県 | 2回 | 4回 | 14 | 100 | 12 |
| 44 大分県 | 2回 | 3回 | 5 | 30 | 10 |
| 45 宮崎県 | 1回 | 2回 | 4 | 15 | 20 |
| 46 鹿児島県 | 2回 | 1回 | 5 | 80 | 20 |
| 47 沖縄県 | 1回 | 2回 | 2 | 25 | 20 |

結果3 研修への参加促進への取り組みについて

個別指導について

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 01北海道 | 事例登録に進めるよう要望に応じて 個別の指導 をする ・来年度は書き方研修を基礎研修と実践4者研修の間に行う |
| 12 千葉県 | 事例を公表したい方に対する 個別指導 |
| 42 長崎県 | 事例検討会で発表した会員については、事例登録に向けた宣言をお願いし、 指導者が随時フォロー できるようにしている。 |
| 43 熊本県 | 実践者研修会時に、事例登録を勧められると判断した場合は、ファシリテーターした指導者が書き方等の指導を行うように決めている。 事例登録を考えている会員から相談があった際は、 個別にMTDLPの考え方や事例の書き方について指導 するルールにしている。 (年々、希望者が減少傾向) |

フォローアップについて

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 04 宮城県 | 書き方研修については、事例登録だけでなく、実践者研修での 事例発表への支援 も行っている。 |
| 13 東京都 | 基礎研修の際にブロックと MTDLP指導者でサポート するので事例検討会での発表をしてみないかと発表を促してみたところ30名の参加者のうち5名の希望者があり、現在、発表に向けて準備しているところである。 |
| 16 富山県 | 基礎研修会参加者後にアンケートを取り、事例検討会の参加希望などを早期よりくみ取り、円滑に 事例検討会までの準備をフォロー する |
| 22 静岡県 | 事例報告の前と、その後にも「 事例登録 」を目指す人への 抄録作成フォロー を継続中です。 ・リモート研修の影響もあるのか、基礎研修の受講者の反応がわかりにくい。そのため、終了後のアンケートを集計し、全ての質問に対してMTDLP指導者が返答し、受講者全員に配布するようにして理解を深められるよう取り組んでいます。 |

結果3 研修への参加促進への取り組みについて

広報について

| 士会名 | コメント |
|---------|---|
| 02青森県 | 士会ホームページ内で取り組みについて紹介しており、随時相談者を募集している。 |
| 09 栃木県 | 年度初めにMTDLP関連研修会の日程一覧を広報し参加を促す。 |
| 10 群馬県 | 事例検討での事例提出推進のため、基礎研修、臨床実習指導者研修での案内を行っている。発表者を募集してから日程を決める試みをした。 |
| 21 岐阜県 | 士会員にメールを使用して研修案内 |
| 25 滋賀県 | 各7圏域ある地域活動局で研修参加へのよびかけと、発表者の選定を行う |
| 28 兵庫県 | HPに事例発表の資料作成における相談窓口を設置予定（HPにバナーなど作成を検討している） |
| 36 徳島県 | 実践者研修発表者を集めるために個別での声掛け |
| 40 福岡県 | 運営委員による声掛け・SNS（LINE）での広報など |
| 42 長崎県 | 士会HP上に年間計画を掲載している。・開催時期が近くなったら、県士会LINEで研修会をアナウンスする。・士会の各地区のMLでアナウンスしている。 |
| 46 鹿児島県 | ホームページ、SNSでの広報はもちろん、生涯教育制度の現職者研修や臨床実習指導者講習会で広報を行なっている。また、運営スタッフが所属している地域(ブロック単位)で広報促進のお願いを行なっている。実践報告者の集め、報告に向けた相談支援も運営スタッフで対応している。 |
| 47 沖縄県 | 基礎研修会の終了時にサポート体制のアナウンスを行っている。 |

結果3 研修への参加促進への取り組みについて

事例登録に関する研修について

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 08 茨城県 | 事例登録を促進するための「導入研修会」を設け、書き方研修を実施している |
| 11 埼玉県 | コロナ前は、事例登録を増やすためにMTDLPゼミを開催して、合格に向けて事例報告の添削会を行いました。 |
| 15 新潟県 | MTDLP実践と事例報告の要点を学ぶフォローアップ研修の開催、良事例への事例登録への促し。 |
| 19 山梨県 | 事例登録に向けた書き方研修会だと難易度が高いため、事例検討会に向けた書き方研修会を行なっている。 |

アンケートについて

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 16 富山県 | 基礎研修会参加者後にアンケートを取り、事例検討会の参加希望などを早期よりくみ取り、円滑に事例検討会までの準備をフォローする |
| 37 香川県 | 基礎研修、実践者研修に参加された方にアンケート(氏名必須)を記載してもらう。その際に、事例発表したいかどうか、事例登録したいかどうか、委員として活動したいかどうかを必ず聞いている。その結果をもとに参加の声掛けや事例発表者確保の声掛けを行っている。学術部の先生と連携を図り、研修会のたびにMTDLPの案内をしていただいている。 |

その他

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 01北海道 | 来年度は書き方研修を基礎研修と実践者研修の間に行う |
| 02青森県 | 会員の学術活動支援として、相談窓口を設け、研究の進め方、症例報告のまとめ方等について支援する取り組みを行っており、MTDLPについても該当させている。 |
| 44 大分県 | 実践者研修での発表前に1～2回資料の修正を行い、MTDLPの実践に対する理解を深める検討をしたうえで発表を迎えるようにした。 |

結果4 次年度に向けた対策等について

| | 対策等の分類 | 士 会 名 |
|---|-----------------|------------------------------------|
| 1 | 事例検討会について（11） | 北海道、宮城、東京、石川、福井、静岡、和歌山、島根、広島、高知、大分 |
| 2 | 研修会の開催方法について（7） | 東京、岐阜、山口、愛媛、佐賀、長崎、熊本 |
| 3 | 精神分野について（4） | 福島、埼玉、愛知、香川 |
| 4 | 臨床実践について（2） | 茨城、新潟 |
| 5 | その他（5） | 青森、岩手、秋田、静岡、沖縄 |

結果4 次年度に向けた対策等について

1、事例検討会について

| 士会名 | コメント |
|---------|--|
| 01北海道 | 事例検討会の発表を増やすために、来年度は書き方研修を基礎研修と実践者研修の間に行う |
| 04宮城県 | 事例発表者が少ないことへの対策として、基礎研修終了時のアンケートを参考に、事例発表の声掛けを行う。 |
| 13 東京都 | 事例検討会での事例報告が少ない。基礎研修修了後、確実に事例報告ができるようサポート体制を整える必要がある。 |
| 17 石川県 | 実践者研修への参加の呼びかけに基礎研修修了者名簿の活用 |
| 18 福井県 | 事例検討会での発表者数と事例登録数を増やすために基礎研修修了者に対して研修等で支援ができるような体制づくりを検討中。ホームページでの情報発信の内容を検討中。(ホームページ更新が滞っているため、今後内容を検討していきたい) |
| 22 静岡県 | 県内の実習指導者がMTDLPの指導が的確に出来るように、事例検討会に参加する会員が多い施設へ講師が直接出向いて行えるように準備を行っています。 |
| 30 和歌山県 | 事例検討会がどのようなものかを知ってもらい、実践者研修に参加してもらえるように委員会で指導者の事例にて模擬事例検討会を開催する。 |
| 32 島根県 | 実践者研修受講促進対策としてより多くの指導者に研修内・外で自身の実践経験や助言を伝えられる環境づくりを検討している。 |
| 34 広島県 | 実践者研修修了者を増やすために、事例検討会の開催を増やすこと、研修会の方法の変更を検討している |
| 39 高知県 | 実践者を増やす取り組みとして、アンケートで発表意欲のある方に個別の声かけをする |
| 44 大分県 | 指導者育成のため、実践者研修の際に必ず書き方研修を行い事例登録につながるよう対策を講じることとした。基礎研修は、臨床実習指導者講習会の後に行い、これまで未受講で関心を持った方の受講促進につなげていきたいと考えている。 |

結果4 次年度に向けた対策等について

2、開催方法の検討について

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 13 東京都 | 基礎研修は、Web研修のため定員が30名程度に限定され、募集開始とほぼ同時に定員枠が埋まってしまう。解決策として、開催頻度を増やす、 集会型 + Web (ハイブリッド) の検討 、研修運営スタッフの増員が必要となるため教育部との連携などの検討を要する。 |
| 21 岐阜県 | オンライン での研修開催 |
| 35 山口県 | 昨今のコロナウィルス感染対策でリモート開催が主流になった事で、 研修会に参加しやすくなった会員 (育児中の方、遠方の方など)もいる。今後の開催を ハイブリッド式 にするかを検討している。 |
| 38 愛媛県 | 新型コロナの流行状態にもよるが、 対面での開催が可能かどうかを検討中 |
| 41 佐賀県 | WEB開催 を含めての開催準備 |
| 42 長崎県 | 令和3年度と同様に、基礎研修1回、実践研修3回を計画予定。・いずれもWeb研修会で計画し、 状況を見て対面研修会での開催を検討 する。 |
| 43 熊本県 | これまでブロック毎に企画運営していた事例検討会を、WEBの普及に伴い、今年度より全圏域を対象に企画運営した。 例年より発表者が増えた感じ有りのため 、次年度も、同様の方法で行う予定。 |

3、精神分野について

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 07 福島県 | 精神分野での事例発表者を増やすため に取り組みについて検討している |
| 11 埼玉県 | 精神科でのMTDLPの普及のために 、 コラボ研修 を開催します。また、小児分野とのコラボ研修も行いたいと思っています。 |
| 23 愛知県 | 精神科事例での基礎研修の拡充 をしたい。 |
| 37 香川県 | 今年度初めて 実践者研修にて精神科の発表を行うことができた 。精神科の方にも積極的に関与していただくために1名委員に入っ ていただくよう検討している。また、委員もベテランの先生方が多いので若手の育成を図る。 |

結果4 次年度に向けた対策等について

4、臨床実践について

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 08 茨城県 | 「臨床現場で使いにくいと感じる」ことへの対応として、導入研修会においては、 アセスメントシートの上部分（予後予測以外）の記載がしてあれば事例相談可能 としています。また、MTDLP実践においては全てのシートを使おうとしなくても良いことなど、まずは少しずつ臨床現場でMTDLPを使用してみようと思えるように講義の中での伝え方は工夫しているつもりです。多忙な臨床現場の中でも使うメリットがあることを感じて頂ければ、実践に繋がるのではと思います。 |
| 15 新潟県 | 幅広い世代で学びやすくするため、今年度の研修を動画コンテンツ化、次年度 MTDLPの実践の要点のレクチャー動画コンテンツ の作成をし、オンデマンド研修の実施。 |

5、その他

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 02青森県 | 生涯教育制度における基礎研修・実践者研修の開催と並行し、 地域支援事業参画のための人材育成を目的としたMTDLP関連の研修会を開催 する。研修修了者、指導者を単に増やすのではなく、本質的な実践や指導が十分に行うことができる人材の育成、地域支援事業へ参画できる人材の育成を進めていく。 |
| 03岩手県 | 会員が現場でMTDLP活用中に聞く人が身近におらず諦めてしまわないように、 相談できるメール問い合わせ窓口を作成中 （委員が回答）。書き方研修会をもう少し崩した3部構成（①書き方について、②事例検討会について、③事例登録について）の on-line-salon をzoom開催で企画中。 |
| 05 秋田県 | 多職種に向けた啓蒙をどのようにするかを検討する。 |
| 22 静岡県 | MTDLPの情報を県内にスムーズに回覧するために、県内の情報発信の改善を目的に情報発信方法の改善を検討中です。・県内の実習指導者がMTDLPの指導が的確に出来るように、 事例検討会に参加する会員が多い施設へ講師が直接出向いて行えるように準備 を行っています。 |
| 47 沖縄県 | 臨床実習指導者講習会と連動させながら、MTDLP×CCSの実習指導方法を実践 している施設との情報交換を講義の中で取り入れていきたい |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

| | 対策等の分類 | 士 会 名 |
|---|-------------------------|--|
| 1 | 実践研修での事例発表者について (15) | 岩手、宮城、秋田、富山、石川、福井、山梨、岐阜、新潟、兵庫、奈良、島根、香川、高知、熊本 |
| 2 | 分野による困難さについて (3) | 北海道、埼玉、滋賀 |
| 3 | 臨床実践に関すること (4) | 群馬、千葉、鹿児島、沖縄 |
| 4 | オンライン研修に関すること (2) | 愛知、愛媛 |
| 5 | 指導者に関すること (9) | 岩手、埼玉、新潟、静岡、滋賀、広島、福岡、長崎、宮崎 |
| 6 | 臨床実習指導者研修に関すること (2) | 山口、静岡 |
| 7 | 職場環境に関すること (4) | 北海道、千葉、新潟、長崎 |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

実践者研修での発表者について①

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 03岩手県 | 基礎研修後の実践研修へ移行する会員が少ない、書き方研修も3年ほど試したが効果が得られなかった。県域が広く各ブロックに指導者を1名置きたいが、MTDLPに興味がある人の発掘が難しい。事例登録までサポートし進んだ会員の例もあったが途中で断念してしまうケースが多い。指導者が増えたことが効果なのか、普及しているという判断指標を何を持って判断したら良いかわからない。身近にMTDLPに精通している人材がいないと、興味があっても途中で諦めている会員もいるようなので、そこをサポートする企画を考えている。しかし、指導者に結びつくかわかりにくい状況。最近では、一本釣りでピンポイントにサポートする形が良いのではと感じている現場では様々な工夫を行って来ているが、トップダウンでの強制力のある動きもないと普及や指導者を増やすという流れを生み出すのには限界を感じる。 |
| 04 宮城県 | 事例発表および登録者が少ない（MTDLPに限らず） |
| 05 秋田県 | 基礎研修修了者が必ずしも実践者研修受講に繋がっていない。 |
| 16 富山県 | 事例検討会の参加が進まない、事例登録までに至らない |
| 17 石川県 | MTDLP事例検討会の参加者数と報告者数の減小（実績平均＝1.4事例・18名/事例検討会） |
| 18 福井県 | 実践者を増やす取り組みが十分にできていない。 |
| 19 山梨県 | 実践者研修につながっていない。特定の職場（委員が勤めている職場）の人しか発表しない。年々、声をかける方が少なくなっている。 |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

実践者研修での発表者について②

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 21 岐阜県 | 実践者研修の参加が少ない |
| 15 新潟県 | 職場での実践が難しいと基礎研修まで終了しても実践者、指導者へ進む人が大きく減ってしまう。MTDLP実践者、指導者になった時の利点が自分の資質向上以外、わからないという声がある。 |
| 28 兵庫県 | 学校でMTDLPを習っている世代の参加率は高いが、ベテランになるとまだ参加率が高いとは言えず、事例発表の資料を作成する際に職場に指導者がいないと意見がありました。 |
| 29 奈良県 | 実践者研修の発表者の確保が困難 |
| 32 島根県 | 基礎研修時は実践に向け意欲的な受講者がいるが、実践者研修履修に繋がる人が少ない。 実践や事例登録に向けた疑義照会を広報しているが実績としては無いに等しい状態。 |
| 37 香川県 | 事例発表者の獲得 |
| 39 高知県 | 実践者が増えない |
| 43 熊本県 | シートへの記載量が、事例発表や事例登録の壁となっているとの声が多い。 |

分野による困難さについて

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 01北海道 | 精神や発達分野での浸透が難しい。 |
| 11 埼玉県 | 事例発表者が身障分野に偏っていることが困難に感じるポイントです。 |
| 25 滋賀県 | 指導者や推進委員が身障・老年期のため、小児や精神など他分野へMTDLPを推進していくにあたり、活用の仕方を十分に説明できず障壁がある。 |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

臨床実践に関すること

| 士会名 | コメント |
|---------|---|
| 10 群馬県 | 実践するには時間を要するため、日常業務を行いながら実践していくことが難しいと感じている会員が多い。そのため必要性を感じていても、なかなか浸透しない。 |
| 12 千葉県 | MTDLPのシートが臨床において使いづらい。組織のマネージャークラスの理解が無いと臨床での実践は難しいと感じる。 |
| 46 鹿児島県 | MTDLPを活用した臨床実践が行えているのか等、全般的に会員の考えや状況を把握することができていない(研修会受講者には、アンケートで集約はできているが不十分さはあり) |
| 47 沖縄県 | 基礎研修会后、会員の自己研鑽に依存しているため仕掛け作りに苦慮している。 |

オンライン研修に関するこ

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 23 愛知県 | コロナの影響で、ZOOMを利用しているが、対面で実施するよりもスタッフの関係で参加人数を増やせない。チームワークの際に全てのグループに委員がつくため、最大でも1人のスタッフにつき6名程度になる。 |
| 38 愛媛県 | リモートの場合、基礎研修時のグループワークにおいて十分なフォローができない。 |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

指導者について

| 士会名 | コメント |
|--------|---|
| 03 岩手県 | 身近にMTDLPに精通している人材がいないと、興味があっても途中で諦めている会員もいるようなので、そこをサポートする企画を考えている。しかし、指導者に結びつくかわかりにくい状況。最近では、一本釣りでピンポイントにサポートする形が良いのではと感じている。現場では様々な工夫を行って来ているが、トップダウンでの強制力のある動きもないと普及や指導者を増やすという流れを生み出すのには限界を感じる。 |
| 11 埼玉県 | 指導者が増えない事と、事例発表者が身障分野に偏っていることが困難に感じるポイントです。 |
| 15 新潟県 | MTDLP実践者、指導者になった時の利点が自分の資質向上以外、わからないという声がある。 |
| 22 静岡県 | MTDLP指導者を取得されてからの役割が不明確なため、目指してもらいたいような声掛けが難しいと感じます。OT会員に講義をしたくてMTDLP指導者を目指そうという人は聞いたことがありません。講義だけであれば、指導者を増やさずに現状の人数でも十分とも言えます。 |
| 25 滋賀県 | ①指導者や推進委員が身障・老年期のため、小児や精神など他分野へMTDLPを推進していくにあたり、活用の仕方を十分に説明できず障壁がある②指導者についてはモチベーションの維持も含め長期的なサポートが必要であるが、士会運営の中では限られた指導者では支援に限界がある③誰が指導者を目指しているかわからないため、士会員の中から指導者候補をピックアップすることが困難 |
| 34 広島県 | 指導者が増えても、推進担当者に連絡が来るわけではないので協力を得られにくいのが課題です。他の資格者リストのように、協会ホームページでリストを確認できるようになると助かります。 |
| 40 福岡県 | 新しく誕生している指導者との連携がうまく出来ていない。 |
| 42 長崎県 | 事例登録後の合格者の把握ができない。以前のように協会からの名簿報告が欲しい。 |
| 45 宮崎県 | 指導者の育成。事務的になりますが、受講者等の名簿管理が困難さを感じます。推進者は各県士会の修了者など把握できるようになると円滑になると思います。 |

結果5 普及・推進において困難に感じるポイント

臨床実習指導者講習会に関すること

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 35 山口県 | 作業療法士間でも認知度が低い。しかし、臨床実習指導者研修内で重要性を発信しており、各領域での活用方法をイメージして貰う働きかけが難しい。 |
| 22 静岡県 | <p>臨床実習指導者研修でMTDLPが見直されてきているが、この現状でスーパーバイザーがMTDLPを使って学生や後輩を指導するのは危険だと思っています。（①臨床実習指導時にどんなケースでもMTDLPシートに記入して、MTDLPで進めている…のは推進の観点から良い傾向と言えるのでしょうか？MTDLPのシート類は、ICF、B.I、老健式などの評価でありこれを埋めることがMTDLPではないと思います。事例登録のD判定(書き方講習スライドにある不合格事例の分析)のようなことが起こらないような考え方で進めていくことがMTDLPに求められているかと思しますので、その項目のチェックシートを使ってD判定例に引っ掛からないことを確認させる必要があるかと思っています。</p> <p>臨床実習指導者研修会でのMTDLPの講義時間がありますが、MTDLP指導者、県士会MTDLP班との連携が全く無くても良いのでしょうか？また、選ばれた講師はMTDLP指導者ではなく事例発表もされていないOTでも良いのでしょうか？講義内容はOT協会が用意されているのかもしれませんが、質疑応答時の返答内容がMTDLPの内容と異なることやD判定内容に記載されているにもかかわらずそれを知らずに肯定して話を進めてしまうケースがあることが予想されます。・臨床実習指導者研修会で、MTDLP関連のシートを書いたことがない実習指導者が非常に多く、実際に指導する技量に差があることが予測されます。</p> |

職場環境に関すること

| 士会名 | コメント |
|--------|--|
| 01北海道 | 精神や発達分野での浸透が難しい 上司が取り組んでいない職場での推進が難しい |
| 12 千葉県 | 組織のマネージャークラスの理解が無いと臨床での実践は難しいと感じる。 |
| 15 新潟県 | 職場トップの理解により実践の状況が異なる（シート作成の時間の確保、業務への落とし込みなど）。職場での実践が難しいと基礎研修まで終了しても実践者、指導者へ進む人が大きく減ってしまう。 |
| 42 長崎県 | ある程度キャリアのある方や職場で管理職の方々などの研修会参加や事例発表・登録が進んでいない。 |

結果6 他士会からの研修会等への参加の対応

他士会員の受け入れ状況

| | 士会数 | 比率 (%) | 士会名 |
|---------|-----|--------|---|
| 受入れている | 22 | 51.2 | 秋田、宮城、茨城、群馬、千葉、新潟、富山、石川、福井、愛知、滋賀、兵庫、奈良、鳥取、島根、山口、徳島、愛媛、佐賀、長崎、熊本、大分 |
| 検討中 | 11 | 25.6 | 北海道、青森、岩手、福島、栃木、京都、香川、福岡、宮崎 鹿児島、沖縄 |
| 受入れていない | 1 | 2.3 | 高知 |
| 自士会優先 | 3 | 6.4 | 埼玉、東京、広島 |
| 依頼がない | 2 | 4.7 | 静岡、山梨 |